



OTONANO GU-WA

息子と

WITH MY SON UNDER THE SAME ROOF

おなじ屋根の下で

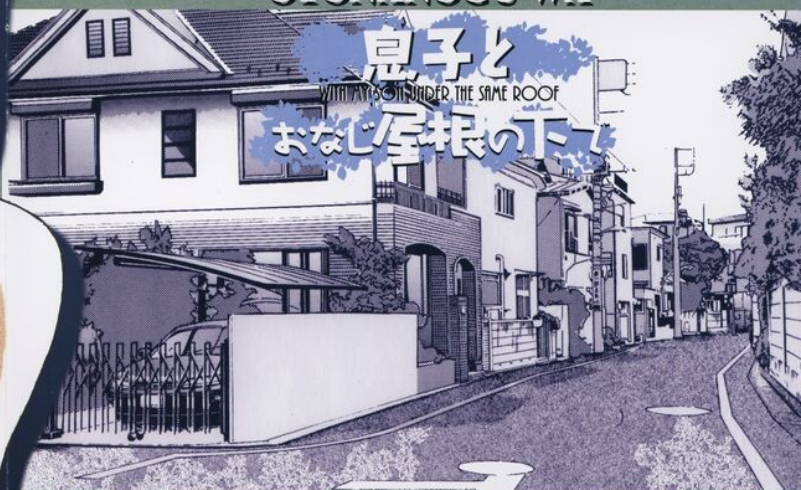
03

OTONANO GU-WA

息子と

WITH MY SON UNDER THE SAME ROOF

おなじ屋根の下で



WITH MY SON UNDER THE SAME ROOF



OTONANOGUWA

息子と

WITH MY SON UNDER THE SAME ROOF

おなじ屋根の下で

成人向漫画

18

ADULT ONLY

ああ…まただ
最近、息子からの視線を感じる

ねつとりと身体に絡みつくような
視線



淳ちゃん
最近帰りが遅い
ようだけど
今日も
遅くなるの？



…そう

別に…
普通だよ

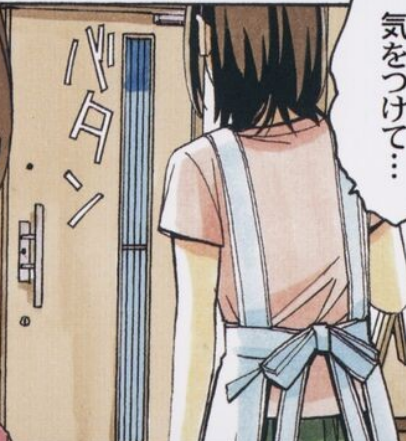


ごちそうさま
行ってきます



あつ…
いって
らっしゃい

気をつけて…



…はあ



けつして母親に向けておくる
視線では無い
男性が女性に向けてくるあの視線
最近口数も少なく最初は反抗期
なのかなとも思ったのだが…

話しかければ返答も返ってくる
ただいつの間にか私の側にいて
じっと見ているのだ

私が入浴している時に、脱衣所に淳ちゃんが来る事がよくあった

?
だれ?

純ちゃん?
どうしたの
何か用?

う…うん
寝るから
歯を磨きに…

…そう
おやすみなさい

はじめの頃は気にもとめて
いなかったのだが――

淳ちゃん…

私の下着が――

洗濯物が無くなっていることに気づいてしまった
まさかと思い淳ちゃんの部屋を調べて
見ると数々の卑猥な写真集や書物を
多数所持していることを知る

年頃の男の子が性に興味を示すのは
別におかしな事ではないと思う
ただ、内容が母親と息子モノという
近親相姦を題材にしたものばかりという
ことに動揺する
まさか淳ちゃんが母親である私を性の
対象としてみている?

不安になった私は夫に連絡を入れた

別に心配する
ほどの事じゃない
だろう
ほっとけばいいさ
知らんぷりして
いればいい

でも、あの子
私の下着を...

あの年頃は
身近にいる異性に
興味を持つものだ
それがたまたま
母親であるおまえに
興味を示しただけだ
ろう

麻疹みたいなものだ
同年代の彼女でも
できればすぐに
治まる

夫からの返答はそつけないものだった

話はそれだけか?
仕事が残ってるんだ
切るぞ?

あつ...
待つて、まだ
.....

ツーツー...

.....

年頃の少年が異性に興味を持つのは
当然だと思う
普通であれば息子もそんな年頃になっ
たんだと成長を微笑ましく思う
ところなのだけれど.....

対象が母親である私というのは
変だと思う
夫が言うように拒絶すればいいのかしら?

でもそれが原因で性欲の発散に
余所さまの女の子を襲ったりして
警察に捕まるなんてことになっ
たら
淳ちゃんは犯罪者に.....

そんなダメよ
あああつ!
どうしたら
いいのかしら!

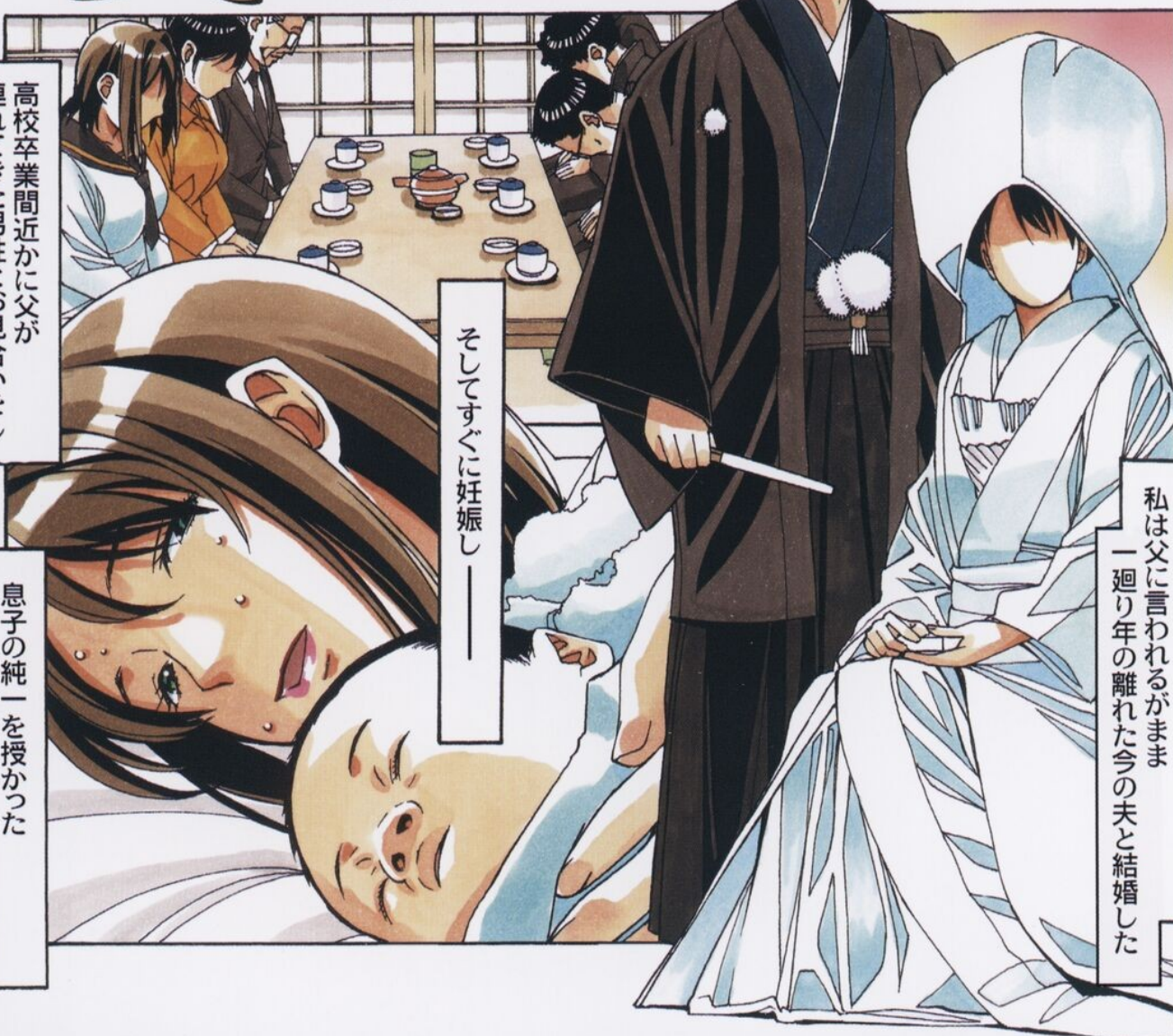


私は厳格な家庭で産まれた
男尊女卑とまでは言わないが
家長である父の言うことは絶対
という家庭で育った

私としては子供の頃から
それが当たり前の生活だったので
全く変とも思わなかった

三姉妹の末の三女

学校も中学、高校とも女子校で
男性とは縁の無い生活を送ってきた



私は父に言われるがまま
一廻り年の離れた今の夫と結婚した

そしてすぐに妊娠し――

高校卒業間近かに父が
連れてきた男性とお見合いをし

息子の純一を授かった

!!
マ...ママっ!?

部屋に入ると丁度、自慰行為中の
淳ちゃんに出一瞬、怯む
なんと私の汚れた下着の匂いを
嗅ぎながらオナニーしていたのだ

ものすごい羞恥心に襲われるもグツと堪える
叱つてしまつては反発されてしまうだろう
ここは優しく諭すようにしないと...

洗濯物からママの
パンツを持ち出し
たりて何をしてたの
かな?

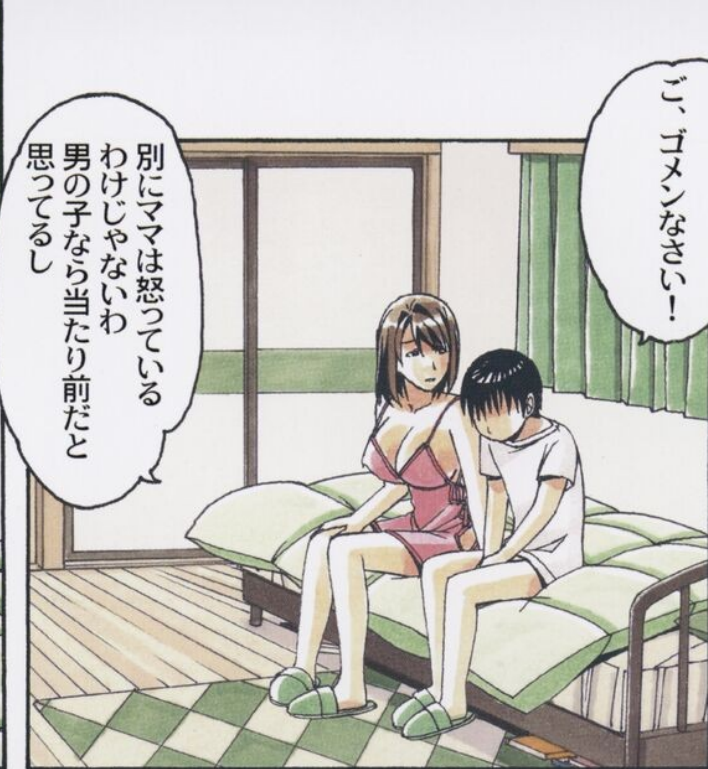
ママの汚れたパンツの
匂いを嗅ぐなつて
いけない子ね

うっ……



ただ、さすがにちよつと
恥ずかしいと思っただけ

えっ？



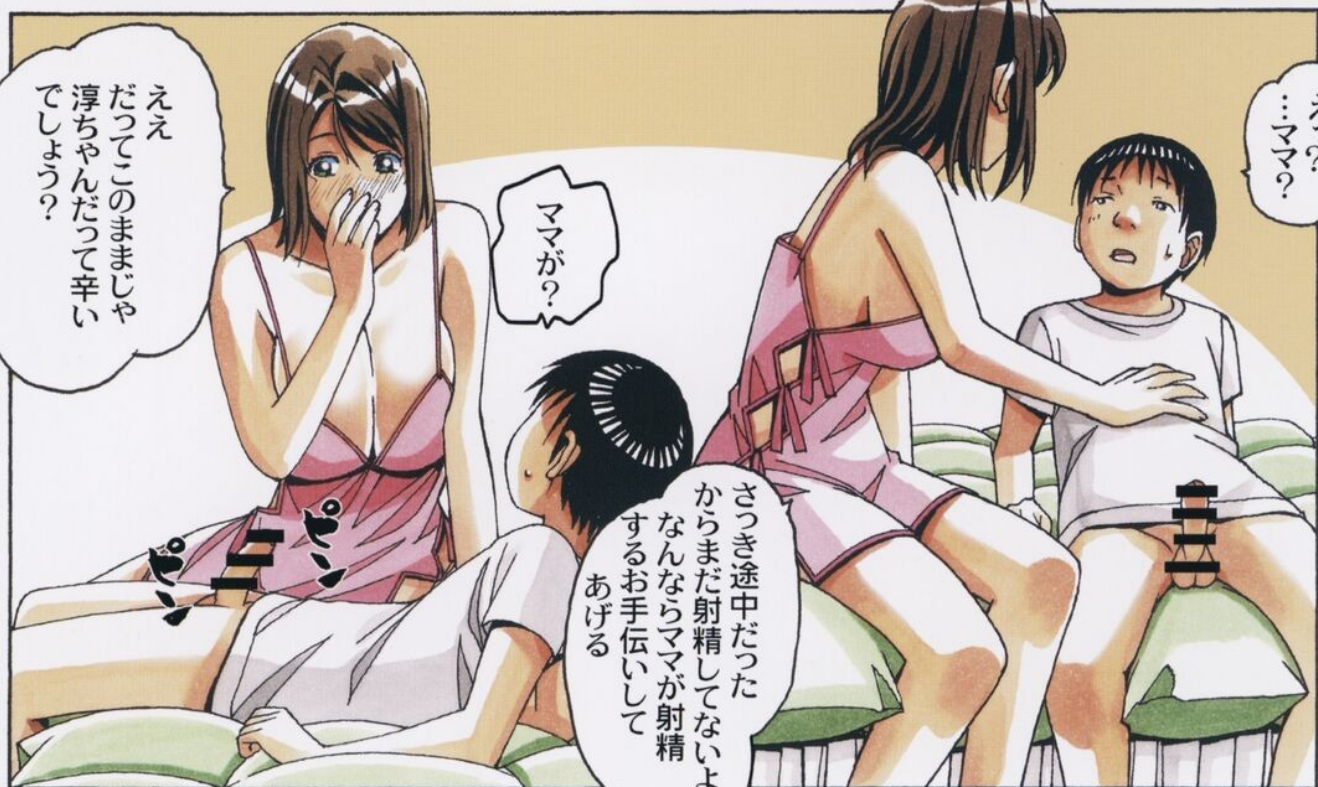
ご、ごめんなさい！

別にママは怒っている
わけじゃないわ
男の子なら当たり前だと
思ってるし



むしろ淳ちゃんも
性に興味を持つ年頃
になったんだって…
成長したんだって

ねえ、ママに
淳ちゃんのオチンチンが
どれだけ成長したのか
見せてくれない？



えっ?!
…ママ？

ママが？

ええ
だつてこのままじゃ
淳ちゃんだつて辛い
でしょう？

さつき途中だつた
からまだ射精してないよね
なんならママが射精
するお手伝いして
あげる

淳ちゃんのおチンチンをみた印象
それはキレイだった
夫のモノのような男性特有の凶悪な感じは
全く感じられない



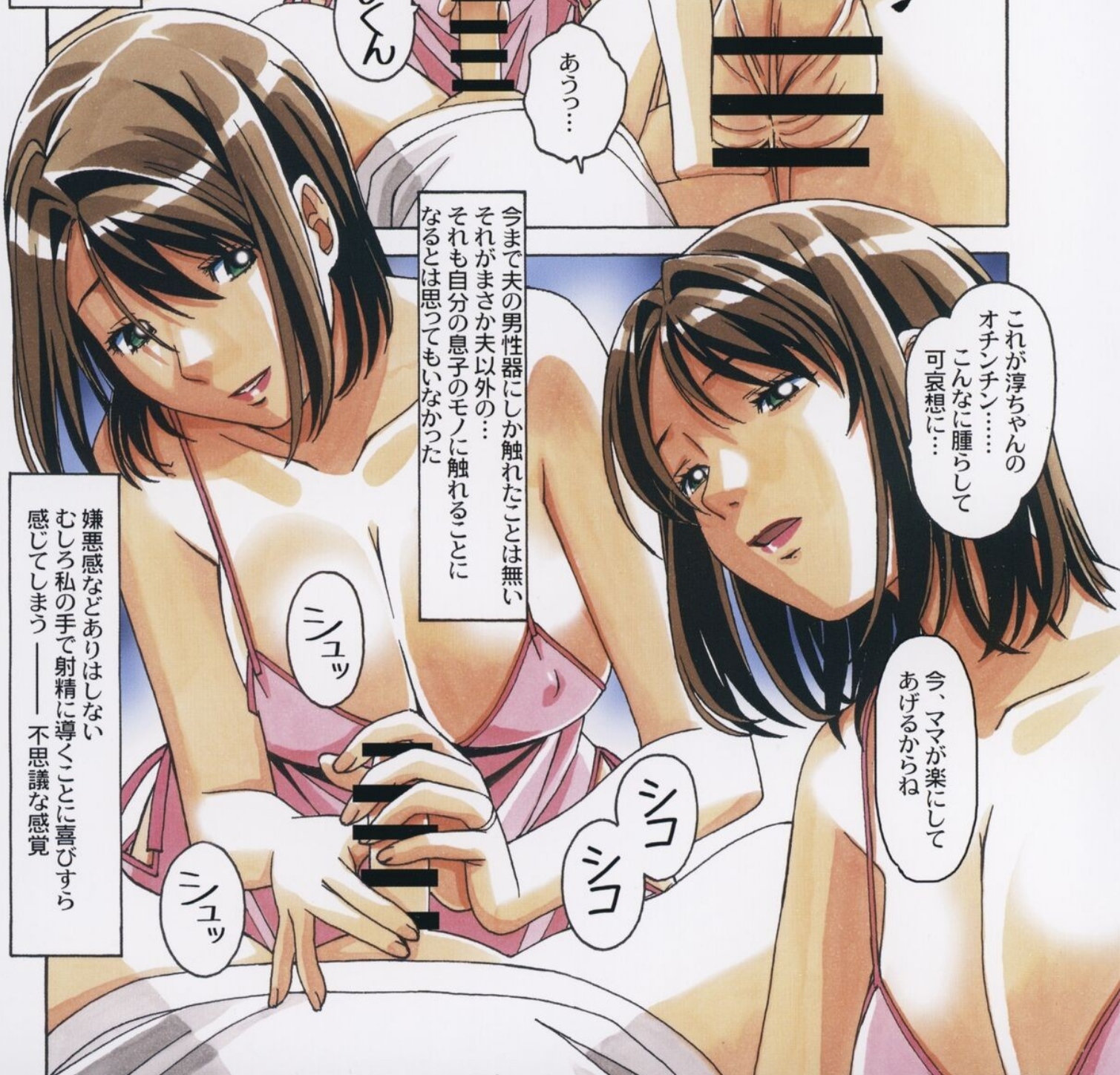
剥けきつていない成長途中のおチンチンだが
生殖可能な男性器であることを主張するがごく
ピンと勃起している
握ると皮に包まれた中の茎は鉄のように堅い

今まで夫の男性器にしか触れたことは無い
それがまさか夫以外の…
それも自分の息子のモノに触れることにな
るとは思ってもいなかった

これが淳ちゃんのおチンチン…
こんなに腫らして
可哀想に…

今、ママが楽にして
あげるからね

嫌悪感などありはしない
むしろ私の手で射精に導くことに喜びすら
感じてしまう—— 不思議な感覚



だから愛情を持って息子の男性器を扱く
淳ちゃんの息づかいが早くなる
鈴口からはヌルヌルとした粘液が溢れ
射精が近いことを告げる



マ...ママ
ボク...もう

はっ

はっ

はあ

はっ

あううう

はっ

あっ...

射精^でるううう!!

はあ

はあ

はっ

あっ

あぐう

んっ

かはっ

あっ...

ドキ

ドキ

手とはいええ、淳ちゃんを射精に導いたことに
得も言われぬ複雑な感情を覚える

えっ？
な、何？

ぼーっと
しちゃって

ママ、どうしたの？

ママッ！

…ま

絶頂を迎えた淳ちゃんオチンチンが
私の手の中でビュクビュクと力強く脈動
しながら勢いよく精液を吐精した

青臭い精臭が漂う
手に付着した精液はコッテリとし粘度の
たかさを物語っていた

ビュク

ビュク

ビュク

ドロー！

ポタ…

な、何でもないわ
……

たくさん射精せたわね
気持ち良かった？

うん！
すごく気持ちよかった！



良かった
ママ、こういうこと
あまり経験無くて
上手に出来たか
心配だったの

また、溜まって我慢
出来なかった時は
ママに言いなさい

えっ...?!
またしてくれる
の?

パパが居ない
時ならね

それと淳ちゃんが
ママの言つことを
聞いて良い子に
してたらね

さあ、今日は
もう遅いわ
もう寝なさい
じゃあ、おやすみ
淳ちゃん

カチャ

ふう...

ドキ
ドキ
ドクン

淳ちゃんの部屋から出でてひと息つく

ドキドキが止まらない
あんな感じでよかったのかしら?

トク...

トクン

トキ

未だに射精させた時の感触が残っている
更生させるためとはいえ自分の息子を射精に
導くなんて、なんてはしたない母親なんだろう

それからというもの

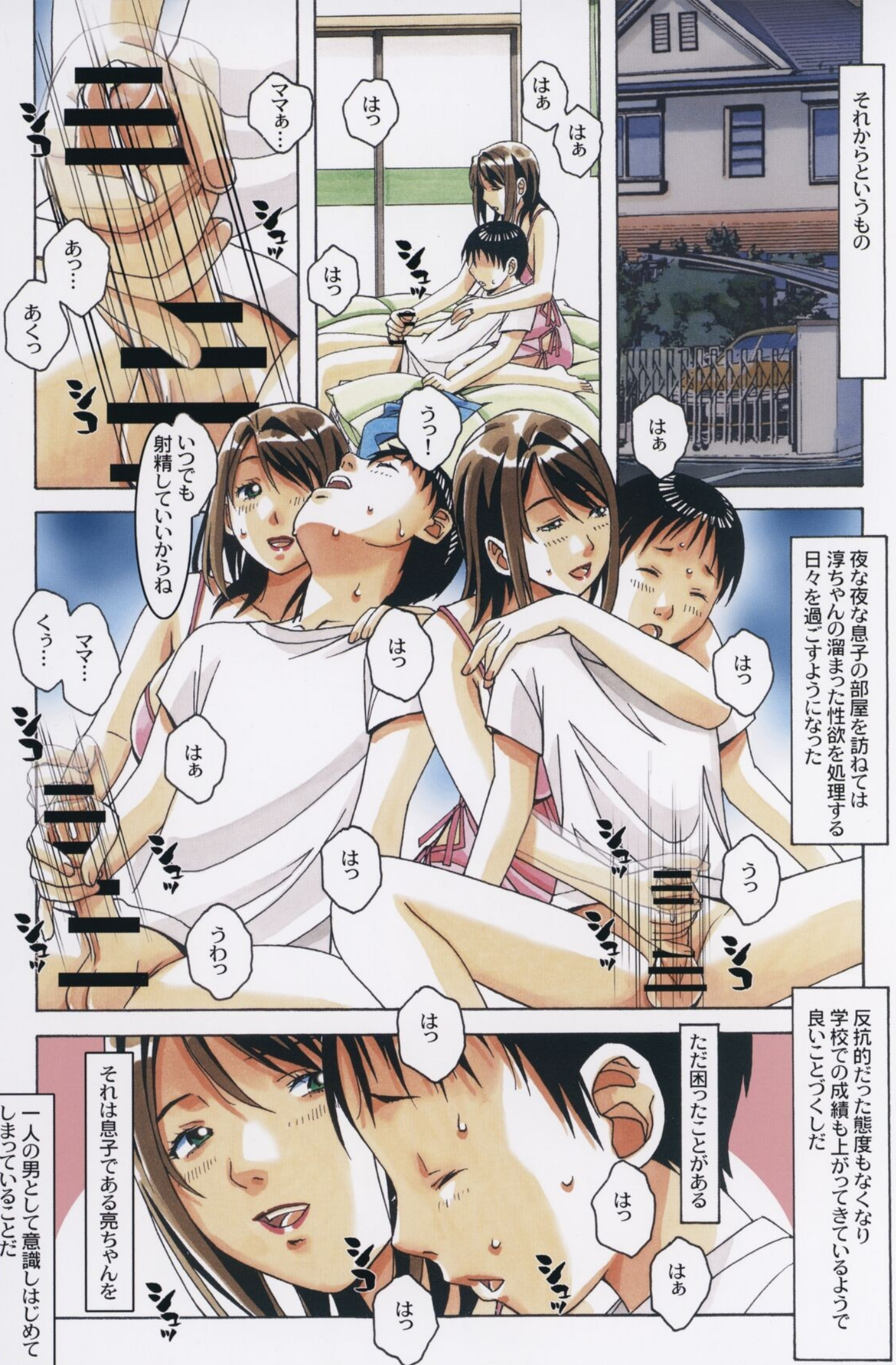
夜な夜な息子の部屋を訪ねては
淳ちゃんの溜まった性欲を処理する
日々を過ごすようになった

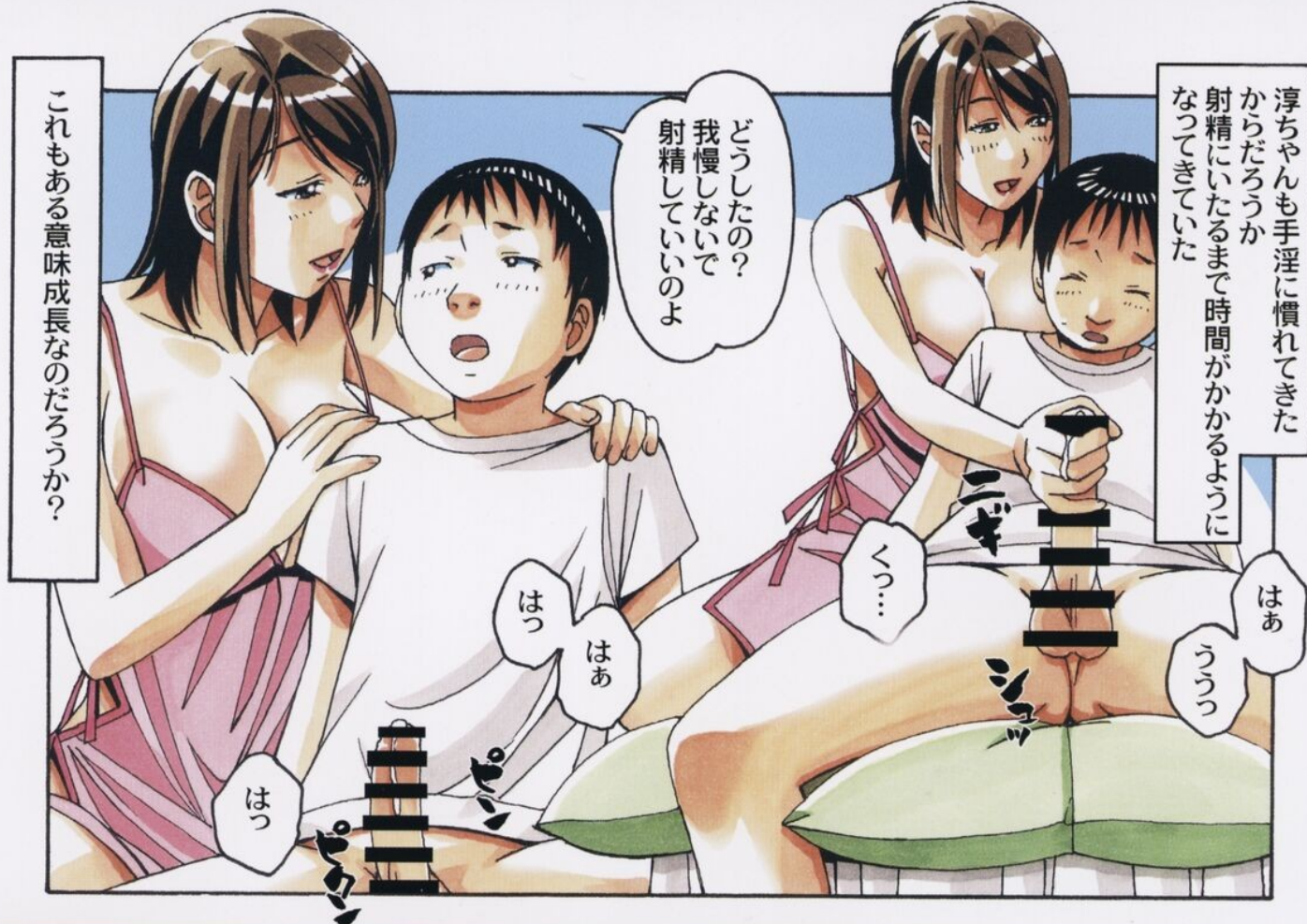
反抗的だった態度もなくなり
学校での成績も上がってきているようで
良いことづくしだ

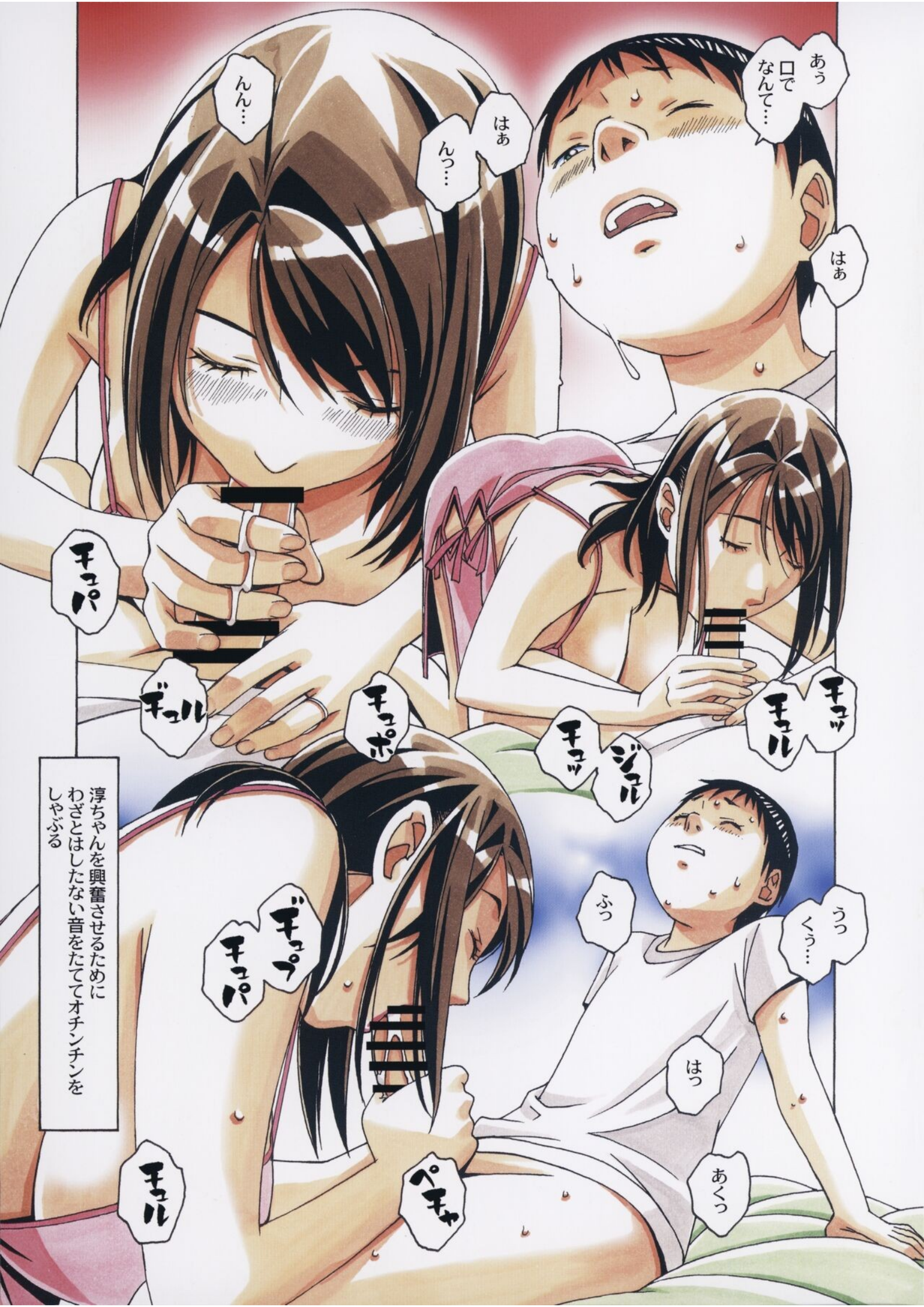
ただ困ったことがある

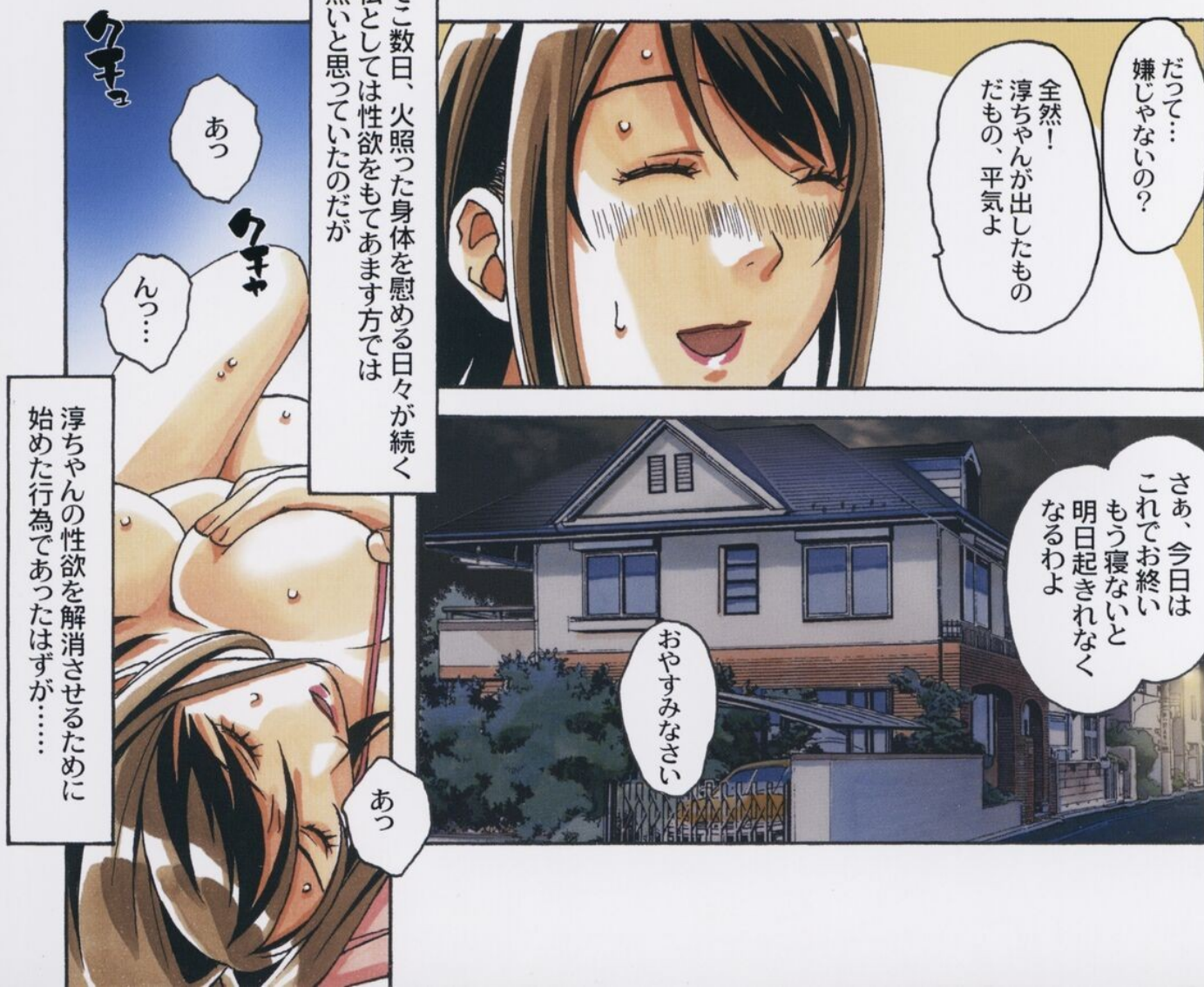
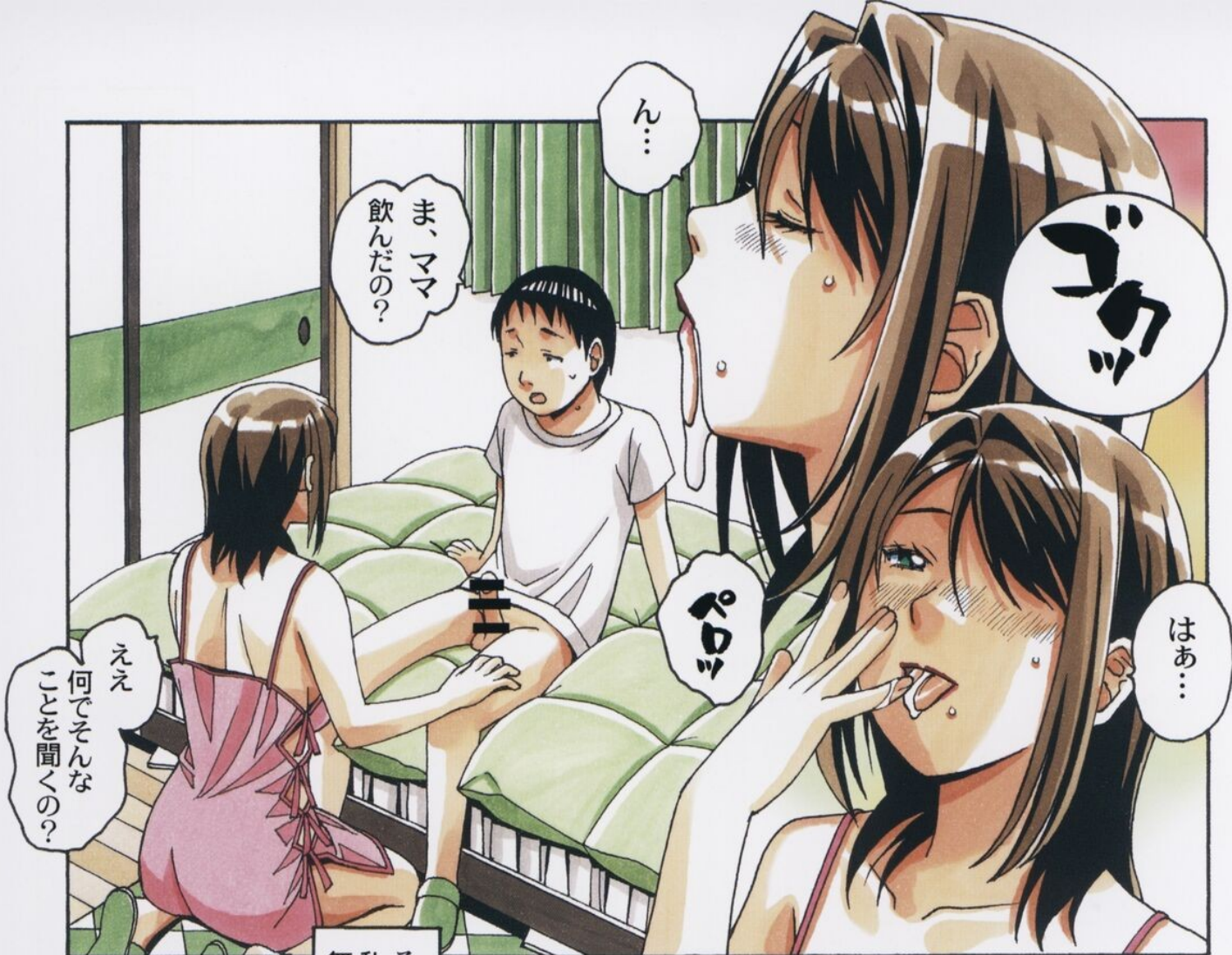
それは息子である亮ちゃんを

一人の男として意識しはじめて
しまっていることだ









本来であれば決して許されない行為
でも
淳ちゃんを射精させたことに対し
喜びを感じている私がいる

なんてはしたない母親だろう

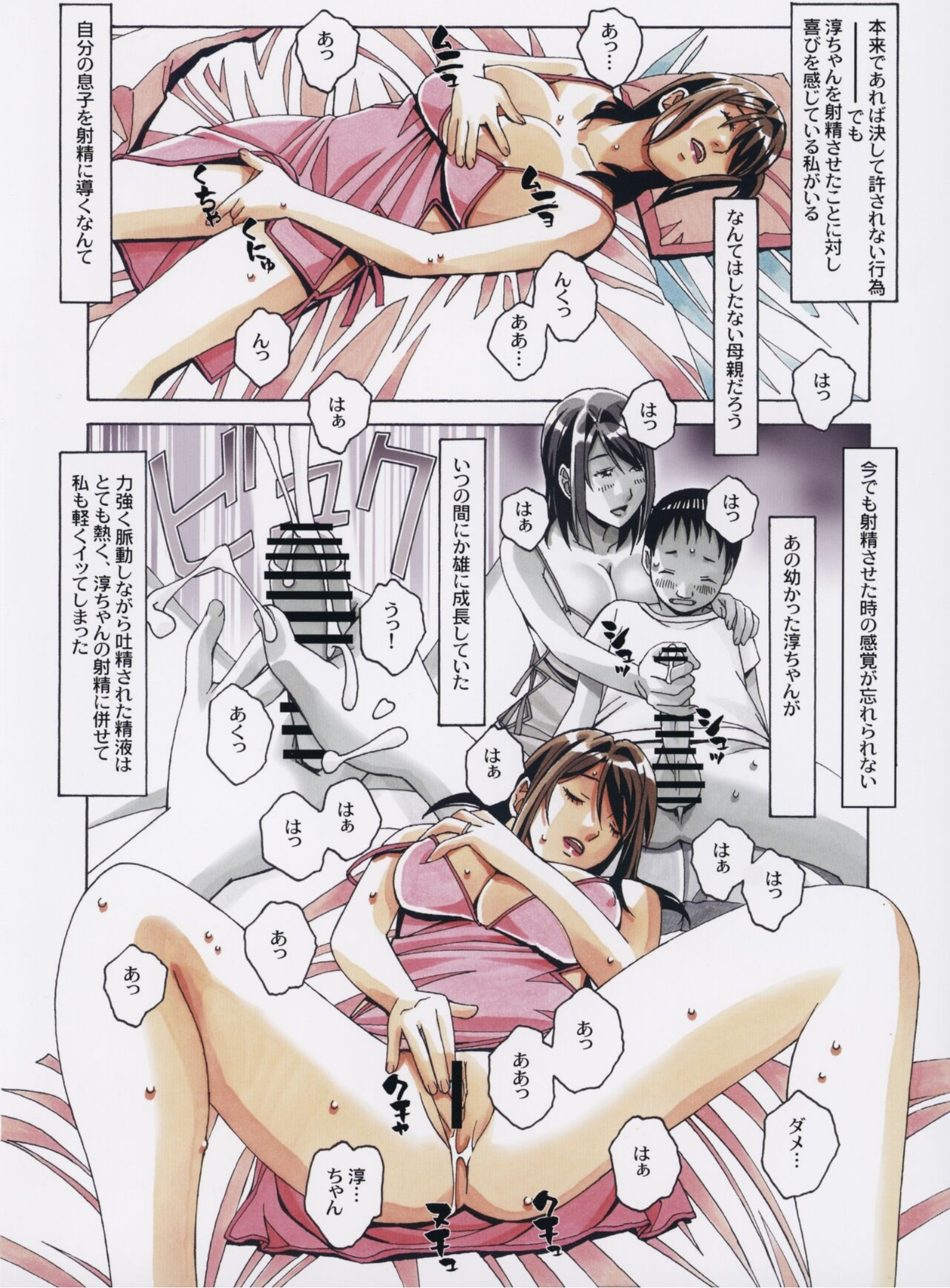
自分の息子を射精に導くなんて

今でも射精させた時の感覚が忘れられない

あの幼かった淳ちゃんが

いつの間にか雄に成長していた

力強く脈動しながら吐精された精液は
とても熱く、淳ちゃんの射精に併せて
私も軽くイッてしまった



淳ちゃんは私を性の対象として見ていた
自分の母親を女としてみていたということだ

淳ちゃん？

ママッ！

はっ

はっ

いったいどんな想像をしたたのだったの？

淳ちゃんの想像の中の私はどんなだったの
だろう？ 抵抗したりそれともされるがままに
犯されたのだろうか？

ズッ
ズッ

ひいひいっ！
止めてえ
淳ちゃん！

何をするの？
いいやつ！
止めなさい

こんなこと
いけないわ！

あっ

はあ

あっ

はあ

あく…

あん

はあ

自分を生んだ母親を犯すなんて…
そんなこと絶対に許されるはずがないのに
でも、禁忌だからこそゾクゾクとする
興奮が芽生えるのかしら？

淳ちゃんの妄想の中で
今まで何度、私は犯されたのだろうか

ズッ

ズッ

プルン

想像の中であろうと母親である
私を犯すなんて……

本能の赴くまま私を犯して
いたのだろうか
そして最後は危険な精液を私の膈内で
放つのだ
決して許されない相姦による生殖行為

ズッ

ズッ

ズッ

快感を得るための射精
でもそんなことをしたら
淳ちゃんの粘度の高い
精液ならば簡単に私を
孕ませることが出来て
しまう
淳ちゃんはその先のこと
まで想像していたのだろうか

抜いて淳ちゃん！
親子でこんなこと
いけないわ！

ダメよ
淳ちゃん
いけないわ

あっ

はっ

はあ

あっ

あっ

あんっ

あああっ

あくっ

ママあ……
気持ちイイ
よ……

嫌あっ

あくっ

ひいひいっ

あっ

淳ちゃんに犯される想像をしながら
激しく乱れ絶頂を迎える

今まで経験したことが無いほどの興奮に
包まれながらの絶頂

ダメえ

あっ

あっ

あふん

イク

イクっ

淳ちゃん
イクうっ！

はっ

はっ

はあはあ…

あふっ

はあ

はあ

はっ

はあ

優しい子
出来るならその願いを叶えてあげたいけど
そんなこと出来るわけがない

ここ最近、就寝前の自慰行為の回数が多い
しかし悶々とした軀の火照りを治めるには
こうするしかなかったから

そうか
そんな想像をしながらも淳ちゃんは私を
襲ったりはしなかった
ちゃんと自制してたんだ

でも、私の軀が淳ちゃんを求めている
私に淳ちゃんのような我慢が出来るだろうか



いい？
これは将来
淳ちゃんに
彼女が出来た時に
失敗しないように
する為の予行練習
だから



こうやって
はい、これでよし！



無理だった——いじらしい淳ちゃんをみて
可哀想に思った私は練習とこじつけ
淳ちゃんの妄想を現実にも叶えてあげる



んっ♡

くぽあ

じゃあ、淳ちゃんは
上手に出来るかな？
ママと一緒に練習
しましょうね

う、うん

うわあつ…
ま、ママの中に
入っていく…

淳ちゃんのオチンチンを私の中へ迎え入れる
避妊具越しとはいえハッキリと淳ちゃんを
感じることができた

んんっ

スゴいわ
淳ちゃんの
堅くて立派よ

あふっ

息子の初めてを私が奪ってしまった
未来の淳ちゃんの彼女には悪いと思うが
私が淳ちゃんにとって最初の女となったのだ

グニョ

ニル

あく

あっ

ああっ

ママ...

あんっ
分かる？

淳ちゃんの
オチンチンが
全部入っちゃった
のが

はっ

はあ

はっ

はあ

いずれは淳ちゃんも彼女が出来て結婚し
家庭を持つようになるだろう
当然、セックスもして淳ちゃんの種で孕み
子供も産まれる
私には出来ないことだ
だから今は誰にも渡さない
淳ちゃんは私だけのもの

ニギ

クニ

わ、分かるけど

ま、ママ
待って
動かないで
じゃないとボクっ

えっ？

あつ、
イヤっ！

突然、淳ちゃんのオチンチンが震えたかと
思うと断続的な脈動がはじまった
私の膣内で射精したのだ

ウンっ？
出てるっ

ひいっ！

熱っ…

びゅっ

どい

おっ

びゅっ

い、イクっ
イクうっ！！

どい

どい

どい

おうっ

おっ

おっ

ゴム
避妊具越しでも分かる力強い脈動
ひと震え毎に大量の精液を出しているのだから
でも残念ながら淳ちゃんの精液は避妊具に
阻まれ私の子宮内を泳ぐことは出来ない

それでも淳ちゃんが私の中で絶頂ったという
事実は変わらない
私が息子を男にしたのだと優越感に浸りながら
私もアクメに達した

なんとも言えない絶頂感
こんなの今まで経験したことがなかった

最愛の息子としたからだろうか？
それとも近親相姦という禁忌の行為から
くるものなのか分からない



部屋に戻ってからも身体の
火照りが治まらない

避妊してたとはいえ淳ちゃんと
肉体関係を持つてしまった
息子と性交渉を持つなんて
自分でもあさましい女だと思う



何故ならば私は息子を愛しているから

アッ

淳ちゃんの出した精液

射精時、ゴム越しにもしつかり
感じられた

こんなコッテリした精液を体内で
射精されたらきつと……

あああ……
すごい量……

どろろ

ねとお

ドクン

ドクッ

ドクン

ドクン

んっ……

淳ちゃんの体内で育成された精液
そう思うと感慨深く愛おしい
このまま死滅させてしまうのは
あまりにも不憫に思った私は――

ああっ……

あふ……

あっ

あっ
んっ

ちゃ

ちゃ

ちゃ

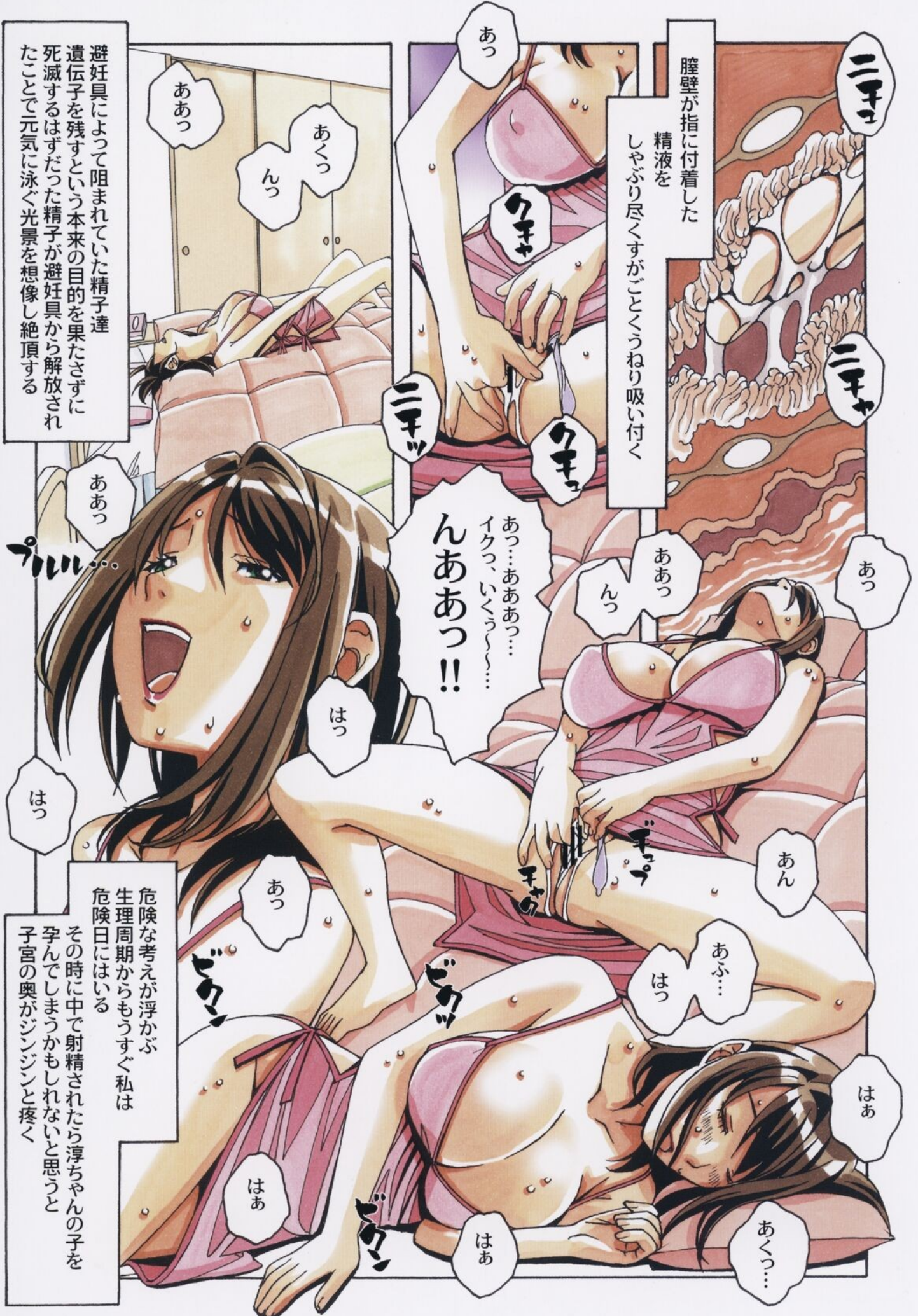
女を妊娠させてしまうかもしれない
危険な精液を私の性器に塗す
精液と愛液が混じり粘ついた粘着音
が奏でる

避妊具によって阻まれていた精子達
遺伝子を残すという本来の目的を果たさずに
死滅するはずだった精子が避妊具から解放され
たことで元気に泳ぐ光景を想像し絶頂する

膈壁が指に付着した
精液を
しゃぶり尽くすがごとくうねり吸い付く

あつ...あああつ...
イクっ、いくぅ...
んあああつ!!

危険な考えが浮かぶ
生理周期からもうすぐ私は
危険日にはいる
その時に中で射精されたら淳ちゃんの子を
孕んでしまうかもしれないと思うと
子宮の奥がジンジンと疼く



私の願望は日に日に増して――

ドキ

今日は避妊具無しで
してみようか？
避妊具した時と無しの
場合の違いを
比較するの

淳ちゃんの視線が熱い

でもこれが私が求めていた雄の視線

で…でも…
ママ、大丈夫なの？
に、妊娠とか…

女性が妊娠するには
周期があるの
学校で習ったでしょ？
今ママは安全日で
妊娠することは
ないから安心して

ドキ

淳ちゃんだつて
興味あるんでしょ？
ママ知ってるんだから
淳ちゃんの旦那本は
そんなのばかりだつた
じゃない

あっぱ

ごめんね淳ちゃん、安全日というのは嘘
そつでも言わないと淳ちゃんは怖じ気づくから
本当は今日が一番危ない日
だから私の中で射精したら受精してしまう
確率はかなり高い

ドキ

淳ちゃんの
オチンチンは
する気満々みたいよ
さあ、いっしょに

あっぱ

う…うん

ドキ

私は避妊具越しじゃなく直に淳ちゃんを
感じたいの
淳ちゃんのオチンチンはどうやら私の魂胆に
気付いているみたい

先端からあんなにお汁を垂らして

お汁

目の前の雌に種を植え付けて孕ませると

そういう意気込みがみてとれる

阻むモノが無い生の性交
挿入前から私の性器はしとどに濡れ渾ちゃん
を迎え入れる準備は出来ていた

ズ
ン
ン

はっ

はあ

はっ

はっ

ん…
そのまま

大丈夫、私は拒んだりしないから

入れるところ
分かる？
そう…もう少し
下…ソコ

念う存分、私の中に
種を蒔いてと暴君に心で語りかける

はっ

剥けきった亀頭が膣口に触れる
初めて二人の粘液が混じり合う

あっ…

あああん
挿入ってきたあ

あっ

あふ…

んっ

ズ
ン

ズ
ン

うわあああつ
な、何か全然
違う！

ズッ

ズッ

淳ちゃんの勃起したオチンチンは
今までにないほど堅く熱を帯びていた

はっ

はあ

ママあ…

ズッ

あん

ズッ

ズッ

はあ

ああん
激し…
淳ちゃん
落ちていて

はっ

ズッ

ご、ゴメン
なさい
腰が
止まらない

あくっ

あっ

あん

はあ

ああつ

はっ

熟した雌は若い雄に翻弄される
堅く反り返った若茎が熟れた性器を
出入りする
その若茎は雌の淫液によって
真っ白に染められている

避妊具を付けていては得られない生の感覚
どう腰を動かしても快感しか得られない
我慢出来なくなった淳ちゃんの腰使いが次第に
激しく叩きつけるような動きになり私を攻める

あつ…やあつ
これ、スゴイっ！
ま、待って
淳ちゃん！

ズッ
ぎゅ
ズッ

んっ

くっ

ズン

グギャ

はっ

はあ

はっ

淳ちゃん

ああん

ママっ!

あっ

いいイク!
イっちゃう

イクう

やあっ

スゴい...

あっ

あっ

ズッ

あっ

グギャ

グギャ

グギャ

ひいっ

淳ちゃんの腰の動きは止まらない
そのひと突きごとに喘ぎ声が漏れる
テクニクなど関係無い
ただがむしゃらに突かれているだけだが
愛する男との行為がこんなに気持ちいいなんて

ズッ

ひいっ
淳ちゃん!

あっ

あっ

ああっ!

パン

ダメえ

パン

あぐっ

ふう

ズン

近親相姦という禁忌による刺激が
とてつもない快樂を得られる
と言うことを知った

母親に欲情する息子
息子に性の手ほどきをする母親
互いに求め合う二人
私たち親子は似たもの同士なのかも
しれない

どろ

我慢の限界をむかえたオチンチンが
震え待ち望んでいたその時が来る
私はより深くで精液を出して貰う
ために足を大きく広げ迎え待つ

どろ

どろ

どろ

どろ

おっ

ぐっ

おおっ

射精^でるっ!!

うん...

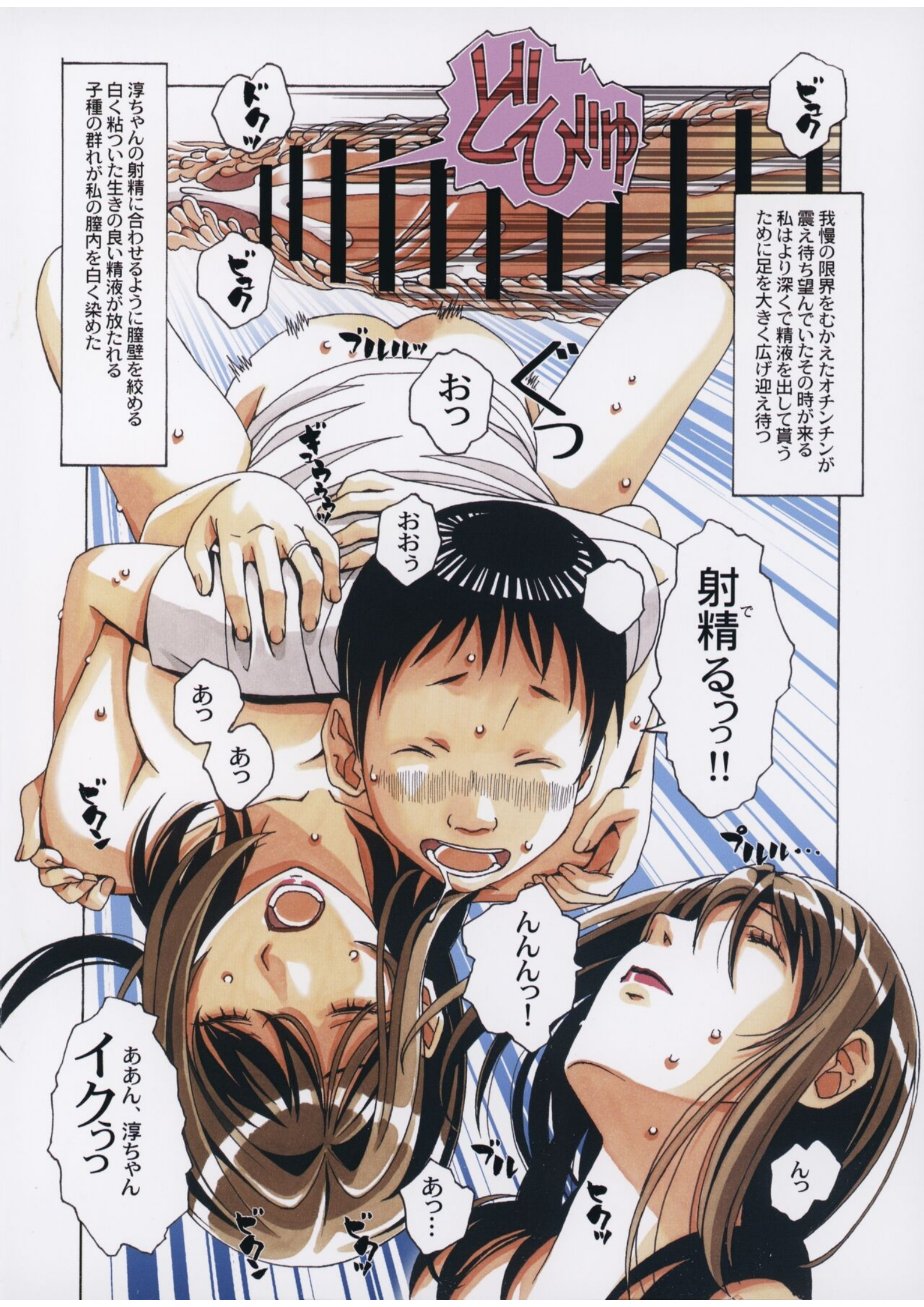
んんんっ!

んっ

あっ...

淳ちゃんの射精に合わせるように膣壁を絞める
白く粘ついた生きの良い精液が放たれる
子種の群れが私の膣内を白く染めた

ああん、淳ちゃん
イクっ



あつ

熱っ！

あつ…
かはつ
でて
射精るう

私の膈内で若茎が何度も跳ねる
その脈動ごとに淳ちゃんの新鮮な樹液が
膈内に注がれる
無防備な子宮に直接注がれているのだ

子宮口は亀頭の先端に吸い付き受精する
ための準備をする
膈内で放たれた精液が息子の種だと知らずに

淳ちゃんの

種が
いっぱい…

あつ

おお

ああつ

もつと…

ママあ！

あくつ

もつと…
全部う

出して

ちよう
…だい

あつ…

ああつ

あつ…
また

イクう…

愛おしい息子の種で孕むかもしれない…
そう妄想するだけで私はソクソクとした
快感を得ることが出来た

子宮内で元気に泳ぐ精子達は排卵された
卵子を目指し確実に受精するだろう
母と子の遺伝子の融合
禁忌とされる行為を私たち親子はしている

そうか…今分かった
今まで私は愛する男を知らなかった
恋をしていなかったのだ

親に言われるがまま夫と結婚した

夫のことは嫌いではない
むしろ今では感謝さえしている

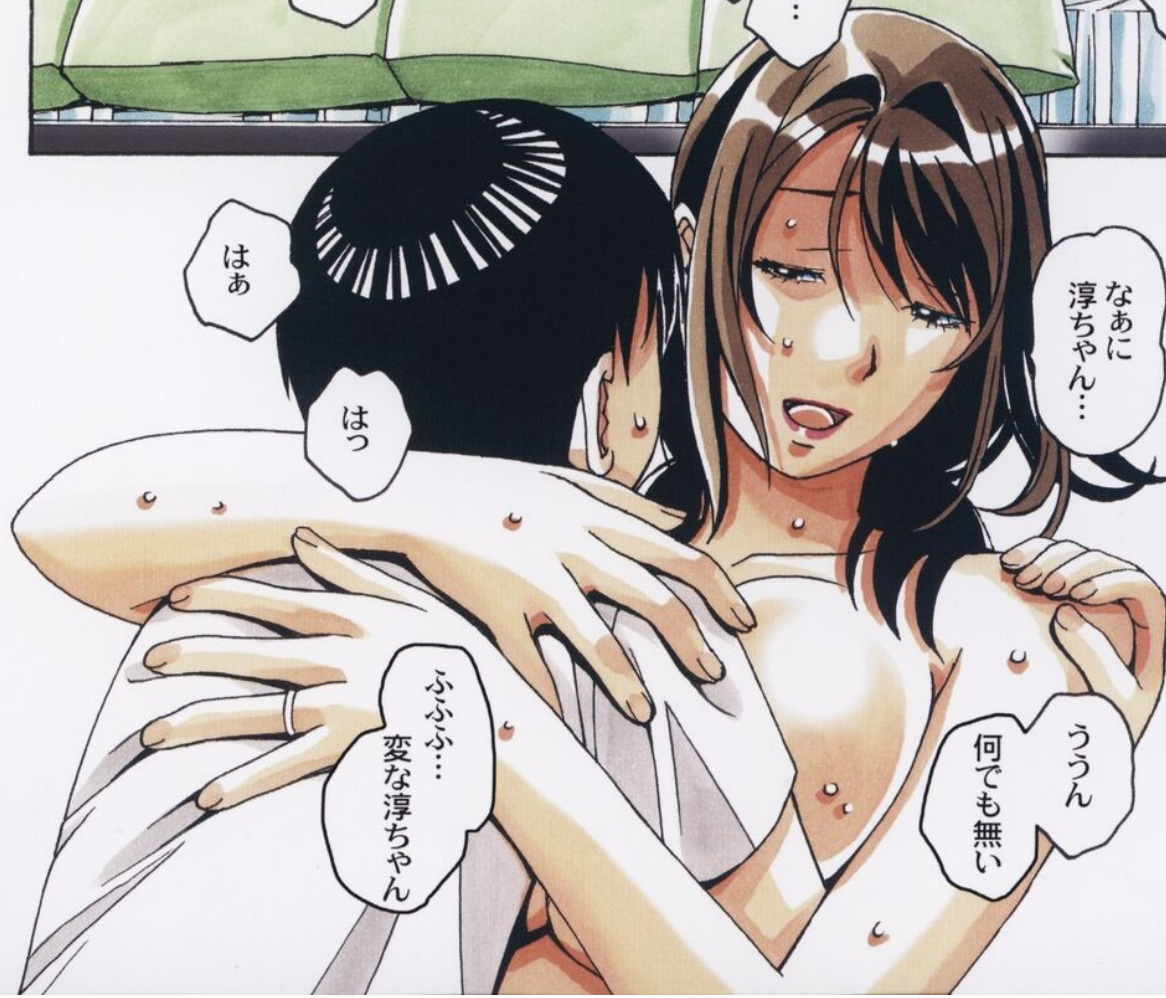
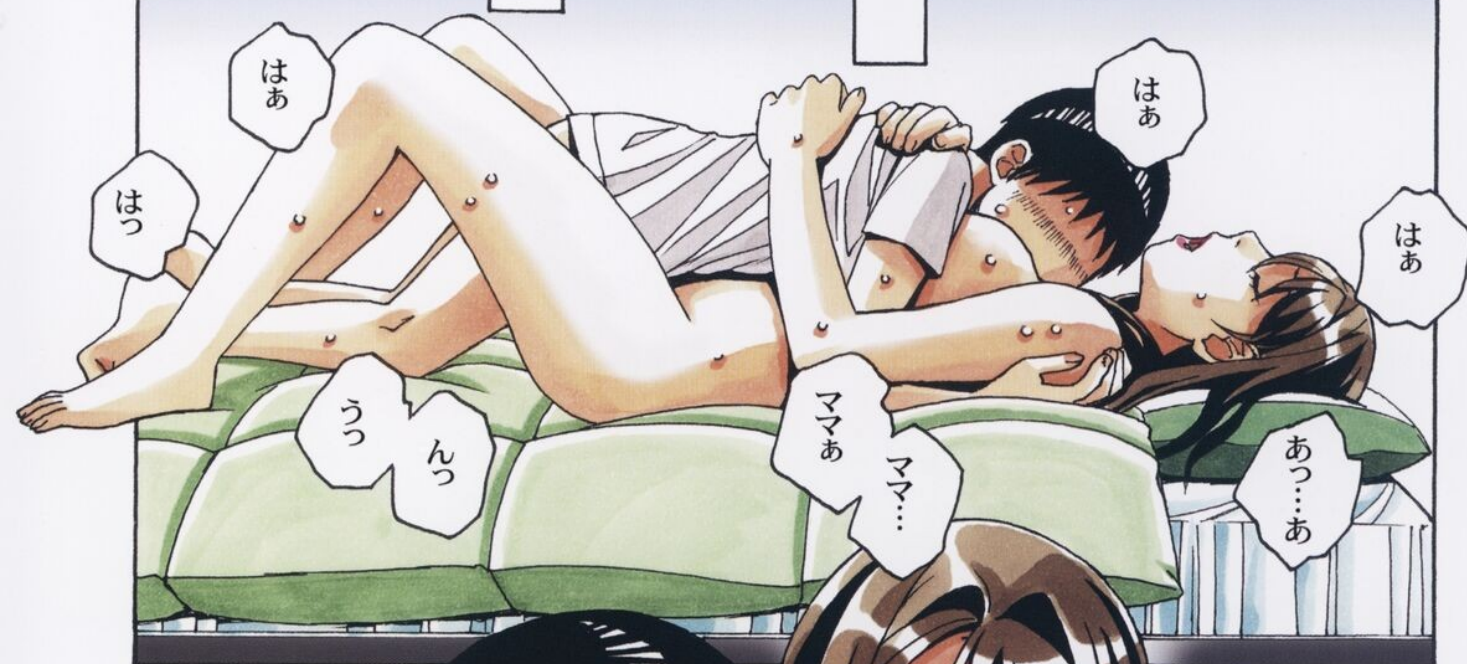
純一という最愛の男を産ませてくれたのだから

私の王子様

最愛の男を私自身が誕生させたのだ

二人きりの世界
この女は自分のモノだと言わんばかりに
子種をまき散らしている

まるで孕めと言わんばかりに――



アフターピルを飲めば受精はしても
着床はしないため妊娠することはない
でも、もしも淳ちゃんに強請られたら
私は断ることができるだろうか？

なかに
淳ちゃん…

うっん
何でも無い

ふふふ…

変な淳ちゃん



Author

山田太郎 (仮名)
(KAMEI) TAROO YAMADA

当サークルの作品をインターネット上に
投稿する行為はしないでください。
過去作品を含め一切許可していません。
当サークルの作品をインターネット上で
見つけた場合、下記アドレスまでご連絡
下さい。

otona@do-wa.net

Doujinshi Circle

OTONANO GU-WA

息子と
UNDER THE SAME ROOF AS MY SON
おなじ屋根の下で

3

初版発行日	2022年 7月 30日
編集・発行	大人の寓話
印刷所	株式会社 JC2

© 山田太郎 (仮名)・道園/大人の寓話

- ★本誌は有料作品です。
内容は成人向けであり18歳未満の購入・購読・閲覧を禁じます。
- ★本作品はフィクションです。
作中に登場する人物・団体名・地名・事件・文化・風習・史実・病等は実在するものとは一切関係ありません。
キャラクターの容姿から想像する性別・年齢等も、全てが架空のものです。
また内容において犯罪行為等を示唆するものではありません。
- ★本誌は著作権法上の保護を受けており発行人の許可無く無断複製・複写・転載・二次使用・ファイル共有・投稿サイトへの無断投稿、及びそのファイルのダウンロードする行為を禁じます。
転売・レンタル・貸与行為も同様に禁じます。
- ★感想や要望など聞かせて頂けると嬉しいです。
【otona@do-wa.net】までお願いします。
イベント参加や販売物のお知らせをブログにて告知しております。

<http://otonanodowa.blog79.fc2.com/>

- ★当サークル発行のバックナンバーは[とらのあな]及び[FANZA同人]にて発売中です。
そちらをご利用下さい。

Warning!!

This book is protected under copyright law.
This is the products which OTONANO GU-WA sells.
Only a buyer can read.
I forbid it to upload it without my permission.
It is strictly prohibited unauthorized copying.



03

OTONANOOGU-WA



息子と
WITH MY SON UNDER THE SAME ROOF
おなじ屋根の下

WITH MY SON UNDER THE SAME ROOF